

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1273800118
法人名	社会福祉法人 沼風会
事業所名	グループホーム沼風苑
所在地	〒277-0912 千葉県柏市箕輪588番地 電話04-7160-8500

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	〒270-1151千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】 (平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日			
ユニット数	3ユニット			
職員数	26名	常勤18名	非常勤8名	常勤換算21.0名

(2) 建物概要

建物構造	併設型 木造造り 平屋建て1棟部分と2階建て1棟部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	光熱水費	15,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有り	500,000円	
食材料費			
	1日	1,800円	

(4) 利用者の概要 (2月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	13名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	77歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏光陽病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは手賀沼沿いの閑静な環境下であり、緑が多く、ゆったりと過ごすことが出来る。ホームが所属する法人は、特別養護老人ホームや通所介護など様々な事業運営を行っており、本館、新館、面会棟などを保有している。

ユニットは1,2階に3つあるが、キッチンの位置、日当たり、天井窓等設計がよく工夫されている。居間の雰囲気やユニットを繋ぐウッドデッキはとても好評である。デッキを使った読書の時間、お楽しみ会、バーベキュー大会など楽しみにしている利用者が多い。職員のうち、若い男性職員が9人おり約半数を占めるのも特徴の1つと言える。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価された報告書に基き、職員全員で検討会を開催、指摘をされた項目について具体的な改善に取り組んでいる。重度化や終末期に向けた方針の共有や日々のその人らしい暮らしへの取組みなどは顕著な改善が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、外部評価は運営上重要であることを強く認識しつつ、今後も真摯に取り組むたいとしている。自己評価の作成にあたってはユニットごとにリーダーが職員の意見を取り入れ纏めた。3人のリーダーは異動、退職もなく、きめ細かい自己評価に繋がっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は柏市の指針により4ヶ月に1度開催している。内容は入居状況、外部評価、防災訓練、柏市グループホーム連絡会、スタッフの個人目標・自己評価、ボランティアのことなど多岐に亘る。出された意見は適宜サービス向上のために活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が面会に来た時や必要な時の電話などで日頃の状況などを報告している。又、月1回の請求時に苑の便り「陽だまり」、ホームからのお知らせ、健康管理についての報告などを同封している。日々の暮らしにおいて、職員や入所者同士の気づきの中で、家族への思い、訴えたいことを汲みとるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	沼南地区のふれあいの集い、柏市グループホーム連絡会主催の集まり、箕輪での集いなどいくつかに参加するなど地域の人との交流がある。傾聴ボランティアの人達とは、徐々に親しみができつつあり、又毎日の散歩で地域、農家の人に会う時は必ず挨拶を欠かさずにし、なじみの関係を深めるように努力している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由な生活」「開放的な生活」「安心・安全」という3つの理念を掲げている。ホームの思いをわかり易く理念に纏めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のもとに、管理者、職員は利用者が自由に生活を楽しんでもらえる配慮や工夫をし、活動の中で都度確認をし合っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	沼南地区のふれあいの集い、柏市グループホーム連絡会主催の集まり、箕輪での集いなどいくつかに参加し交流がある。又、傾聴ボランティアの人たちとはとは徐々に馴染みの関係が出来てきている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価報告書にもとづき、ホーム職員全体で検討会を開催、指摘をされた項目について、具体的な改善に取り組んでいる。 外部評価は運営における惰性と慢心に対する警鐘として重要であることを強く認識しつつ、今後も真摯に取り組みたいとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は柏市の指針により4ヶ月に1度開催している。内容は入居状況、外部評価、防災訓練、柏市グループホーム連絡会、スタッフの個人目標・自己評価、ボランティアのことなど多岐に亘る。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者支援課や地域包括支援センター職員との連絡、市の職員の定期的な来苑、グループホーム連絡会の場などを通じ、行政との関係を強めている。関係者からの意見は、その都度サービスの向上に結び付けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来た時や必要な時の電話などで日頃の状況など報告している。又、月1回の請求時に苑の便り「陽だまり」、ホームからのお知らせ、健康管理についての報告などを同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や、こちらからも尋ねるなどで随時意見交換をしている。運営推進会議では入居状況や職員のサービスの取組みについて報告し、意見交換をしてサービス向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の方針で、部門間で定期的に異動を行っている。異動した場合は広報誌で家族に連絡することなどによって、ケアに支障が無いように配慮している。定期的な人事異動で、職員に新しい職場に早く馴染むスキルが備わっていることは組織の強みである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講習、内部講習はそれぞれ職員の経験とスキルにより振分け、満遍なく受講できるよう計画し実行している。又、能力開発面では個人目標の策定やユニットごとの研究課題発表などの、相互啓発の仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会の集まりで多くの情報交換を行っている。又年に1回、連絡会に所属する事業所のスタッフによる交流会があり、今まで2回の開催ではそれぞれ70人～80人が集まり、テーマごとの熱心な交流がなされた。		
II. 安心と信頼にむけた関係作りと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては利用者自宅を訪問して今までの生活や経歴、趣味、家族構成などを、時間をかけて聴き、面接票に記入し、これらの情報は職員間で共有している。見学はいつでもできるように対応しており、体験入居で、ホームに馴染むことができるようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族的な雰囲気づくりを大切にして、食事準備や片付け、掃除、洗濯物たたみなどの家事を一緒にすることから、支えあう関係を築いている。又、利用者の昔の暮らしの話や季節の行事の慣わしなどから教わることも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の長い利用者からは日常の会話や動作、家族からの情報などをもとに把握している。それ以外の把握の困難な利用者からは介護日誌や面接票、年長者として敬った気持ちで接することから支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は居室担当者からの情報や記録、家族からの要望も参考に、職員も含むカンファレンスを開催して計画作成担当者が作成している。作成した介護計画は家族からの同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しは、モニタリングや家族からの情報をもとに3ヶ月に一度実施している。又利用者の心身の状態に明らかな変化が見られた場合にはその都度ケアプラン会議を開催して見直ししている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している法人の施設の利用者と一緒にお花見や運動会、敬老会に参加したり、大浴場に出かけて入浴することもある。地域の小中高生の体験学習も受け入れ、地域住民の見学にも応じている。敷地内の小高い丘の上に立つ、面会棟を利用して家族と一緒にバイキング料理を楽しむこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のかかりつけ医が柏市内の場合はホームの看護師が付き添い受診しており、市外の場合は利用者の家族が付き添って受診している。ホームには、協力病院と、歯科医が毎週訪問診療を行っており、定期的に健康診断も実施し適切な医療支援が行われている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入居時に利用者、家族とも話し合いの上、確認書を取り交わしている。内容は看取りの場所や、延命措置の対応などについてであるが、家族との面会の折には再確認をするようにしている。協力病院や、担当医師とも連携を取り、方針は職員皆で共有している。</p>		
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの確保については、排泄の誘導の言葉かけ等に注意し、気になったときにはその都度職員同士で正すようにして利用者の人権を尊重する対応に心掛けている。又、記録等の個人情報は、法人全体で厳重に管理している。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事などは予定時間を決めているが、それ以外は本人のペースに合わせるようにしている。各ユニットで実施しているレクリエーションに利用者は自由に参加できるようになっており、俳句の好きな利用者は管理者と相談して句を作ったり選んだりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備や片付けは出来る範囲で行い、箸や茶碗などは個人の持ち物で食べている。週1回、昼食を利用者のリクエストの献立で職員と一緒に料理する日があり楽しみにしている。家族を招いてバイキングパーティや外食の機会もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回以上利用者の要望に応じて行っている。楽しみなものになるよう、菖蒲湯、ゆず湯など季節に合わせ、変化をもたせている。敷地内の施設の大浴場を利用することもある。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や状態に応じて、日常の家事や家庭菜園の水遣りなどを手伝ってもらっている。書道や塗り絵、法人施設の利用者と一緒に行事、地域の集いへの参加は気晴らしや楽しみごとになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲は田園風景と四季の移り変わりの豊かな環境にあり、日常の散歩などは天候の許す限り行っている。近くの道の駅や、年に数回、法人のバスを使つての外出や、一泊のバス旅行には家族も誘って出かけ喜ばれている。	○	利用者家族等のアンケートで「戸外の行きたいところへ出かけていますか」の設問で「あまり出かけていない」という回答が多くある。大変だと思うが日常的な外出支援の改善、検討をお願いしたい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室には鍵はかけていないが、冬場玄関だけは安全を考慮して施錠してある。ユニットを繋ぐウッドデッキは両方の利用者が行き来出来るようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署員立会いで1回、法人全体とホーム自主で各1回、合計年3回実施している。職員の緊急連絡体制も出来ているが、2階のユニットの利用者の緊急脱出に不安がある。	○	2階に居住する利用者が避難する非常階段は設置してあるが、災害が起きた場合、階段の構造上、避難するには不安がある。早急な検討をお願いしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は月2回実施している食事委員会が作成している。内容は季節や、嗜好、利用者の状態にあわせてバランスよく配慮している。摂取した食事や水分の量はチェック表に記入し、毎月の体重測定などの観察で利用者の変化を速やかに把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは、同じような構造になっているが、玄関や壁面の装飾、リビングのソファの配置、居室の表札等は個性がある。全体からは家庭らしさが感じられ落ち着いた雰囲気である。又、ユニットを繋ぐウッドデッキはお互いが交流できるスペースにもなっており開放感が味わえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	約8畳の居室には備えつけの洗面所と押入れがあり、使い慣れたベッドや整理箆筒、小さな仏壇、家族の写真や書籍が持ち込まれ、俳句の短冊や書道が飾られ自分らしい部屋になっている。畳の部屋を希望する利用者には、床と段差が無いように畳が埋め込まれている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。